



▲白石市の市街地から見える雄大な蔵王連峰

※1 白石城

白石城は、中世期末ごろ建立した地元の土豪白石氏の居城でしたが、慶長7年(1602年)から仙台城の支城として伊達家の重臣片倉氏が代々居城しました。明治時代に解体処分となりましたが、近年、白石市民から復元に対する運動が起こり、平成7年に天守閣と大手門を、市民と行政が一体となり復元しました。史実に忠実に復元され、全国的にも数少ない木造。白石市の中心部にあり、周辺は益岡公園として整備されています。

※2 白石和紙

原料と水質に恵まれた環境の中、手すきで作られる白石和紙は、ふくよかでじょうぶ。色のバリエーションも豊富で、その風合いが魅力です。札入れ、名刺入れ、ハンドバックにも加工され、珍重されています。

※3 白石温麺

江戸時代元禄年間、胃病を患う父のために息子(味右衛門)が、旅の僧から油を使わない麺があることを聞き、その製法を学び、苦心の末、小麦粉と塩水から造る麺を完成させました。人の温かい思いやりからできたこの麺のことを「温麺」と呼ぶようになりました。ゆでやすく、口当たりがさわやかでとても食べやすい麺です。

※4 宮城野信夫の仇討ち物語と孝子堂

寛永17年(1640年)に白石で起きた、仇討ちの話が「白石噺(ばなし)」として歌舞伎などで演じられ、人気を博しました。この仇討ちは、剣術指南役の志賀団七(しがだんしち)に父を殺された宮城野と信夫の姉妹が、武芸者由井正雪(ゆいしょうせつ)の門下となり剣術を修行して仇を討ったというもの。この姉妹と父の霊をまつたのが、孝子堂です。

※5 片平観平

江戸時代中期、農村への水源となった蔵本村大堰(くらもとむらおおぜき)は、河床の変化で少しの増水でたびたび壊れ、水不足の影響が深刻でした。片平観平は、天保元年(1830年)から蔵本大堰切通し工事を行い、分水することで堰の保護と農地に配水し、農村を救った人物です。

※6 片倉小十郎

片倉小十郎景綱は、伊達政宗の家臣で、常にその傍らにあって生涯を政宗にささげました。豊臣秀吉、徳川家康も、景綱の実力を認めて大名として取り立てようとしたものの、断わったといわれています。白石城主。

※7 碧水園

古典芸能伝承の館「碧水園」には、本格的な能楽堂と茶室があります。園庭の池には、白石川の清流が小原地区の碧玉溪(へきぎょくけい)を流れ、白石城の内堀を経て流れ着くところから、「碧水園」と名付けられました。古典芸能に親しみ、四季おりおりの庭を眺めながらお茶を楽しめる場所です。

▶荒島パークで、これからの交流を誓う市長と町長が固い握手



んです。
佐藤…あれは面白いですね。まちづくりは面白くないとだめなんですよね。
風間…白石が持っている歴史を生かしているのが、仇討ちシリーズなんですよ。「宮城野信夫」という仇討ち物語(※4)が白石にはあって、それを題材にして、「敵をとる」という仇討ちではなくて、「成就する」、「願いを込めたのが成功する」という意味での仇討ちシリーズで、辛いというコンセプトで作っています。そして、みんなが楽しみながら4種類の商品が販売されています。まんじゅう、みそ、クッキー、ドーナツです。
また、青年会議所では、偉人伝という漫画読本を8冊発行していますが、そのうち仇討ちに関するものは孝子堂(※4)というところに、18代横綱の大砲万右エ門については白石城の銅像のところに、箱を作っていつでも漫画を読めるようにと漫画読本を置いてあるんです。今後は、片平観平(※5)や片倉小十郎(※6)なども考えています。

まちを自分たちで再発見しながら自分たちで楽しくやっているようです。
最近では、「軽トラ市」が始まりました。軽トラックに自分たちが栽培した野菜などを乗せて、荷台をお店として現在10台が来店しています。そして、いずれは南三陸町との交流の中で、南三陸町にお邪魔して販売もできるんだからと話しているんですよ。
それから、先日、NHKの番組の中でヘルスメイトさんが紹介した料理の中に、「カキ温麺」やヘルシーなものになると、ワカメなどがありました。このように、お互いの持っている産品をタイアップして何か一つ作れないでしょうか。
佐藤…今、ワカメというお話でしたが、今うちの町では山形県の庄内町と交流を行って、いまして、庄内町で大きな漬物屋があるんですよ。そこでねばねばの、ねばっこいものの漬物を作ろうと、2年前の11月ごろ試作をやっていたんです。ナガイモやオクラ、それにメカブを入れたいと、メ

カブを大船渡から持ってきてやっていたんですが、ちょうど友好町となったので、庄内町の町長さんから南三陸町にもメカブがあるよねと言われ、町の業者を紹介したんです。そうしたら、去年の日経新聞の新しい商品ベスト10に入っただけです。その商品のメカブが、南三陸町産なんです。そこで、温麺にメカブなど、南三陸町産の海産物などをトッピングで食べられないでしょうか。つけだれの中に入れてもいいし、何か可能性がいっぱい広がるのかなと思います。
風間…そうですね。夢を持って、「こうしたらどうなるんだろう」というチャレンジの心は忘れたくないですね。
佐藤…先ほど市長がお話した通り、うちの町では海、山の体験メニューが100を超すくらいありますから、どういう体験でもできます。ダイビングは子どもでは無理ですが。東北地区でダイビングを本格的にやっているのはうちの町だけです。そこで、うちの町のキャラクターに考えているのが「クチャバシカジカ」

という小さな魚です。これが顔はイノシシみたいで、とてもかわいいんです。そのほかに「ダンゴウオ」なんかも湾内にいるんですよ。
私は、最初ダイビングをやるって聞いたとき、「ダイビングは沖縄じゃないの?」って言ったんです。そのとき、たまたま高知県のダイバーが来ていたのですが、「沖縄のダイビングというのは四季がな

交流の実現に向けて」
風間…同じ宮城県でも、案外、お互いのまちのことを知らないものだなと思いました。交流することで、お互いにこういう良いものがあるんだと、宮城県の中でも歴史を持っていたり、体験ができた子どもたちにとっても良い交流ができると思います。ぜひ、白石の小中学生が南三陸町にきて、海でさまざまな体験をさせたいですね。



▲緑に囲まれた白石城

佐藤…私が白石はぜいたくだなと思ったのは、碧水園(※7)の能舞台と茶室ですね。うちの町では味わえない雰囲気ですよ。子どもたちが何かやるんだったらぜひいたくだな

と思います。

とありましたね。能舞台でバンド演奏することもあると聞いて、すてきなコラボレーションだと思ますね。

風間…白石は「歴史と文化」で売っていきたいと思いますので、南三陸町からおいでいただいた歴史と文化を見てほしいと思います。同じ宮城県の中で、お互いのまちを逆に外から見ること、自分の町の良さを見つけてほしいですね。交流をしながらお互いが共存共栄することができないかな

とあります。
佐藤…体験学習も大事ですが、スポーツでの交流もしながら、お互い高め合っていけば、こんな良いことはないと思っています。先ほども言ったように、2時間かからないですから。そんなに遠くないし、ちょうど良い時間ですよ。

風間…ちょうど良いと思いますね。家族の小旅行でも良いし、日帰りも十分できる距離ですね。
佐藤…やっぱり、今、財政が厳しい時代ですから、手近で自分のまちなないものを持っているところとの交流は、ある意味肩ひじ張らなくて済むので良いと思うんですよ。

風間…ちようど良いと思いますね。家族の小旅行でも良いし、日帰りも十分できる距離ですね。
佐藤…やっぱり、今、財政が厳しい時代ですから、手近で自分のまちなないものを持っているところとの交流は、ある意味肩ひじ張らなくて済むので良いと思うんです。

佐藤…今年は、お互いに良い年でありますように。ありがとうございました。